

大学等における修学の支援に関する法律施行規則第5条第3項の
更新確認に係る申請書

福岡女子短期大学

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	福岡女子短期大学
設置者名	学校法人 九州学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計		
	健康栄養学科	夜・通信	8		39	47	7	
	音楽科	夜・通信			56	64	7	
	文化教養学科	夜・通信			28	36	7	
	子ども学科	夜・通信			70	78	7	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

<https://www.fukuoka-wjc.ac.jp/about/pdf/jitsumu-kamoku.pdf>

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	福岡女子短期大学
設置者名	学校法人 九州学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

https://www.fukuoka-wjc.ac.jp/hojin/pdf/riji_meibo.pdf

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	天満宮権宮司	2021.4.1 ～ 2025.3.31	経営計画の策定
非常勤	博物館館長	2021.7.28 ～ 2022.7.27	経営計画の策定
非常勤	大学名誉教授	2019.9.27 ～ 2023.3.31	経営計画の策定
非常勤	元大学教授	2020.5.22 ～ 2024.3.31	経営計画の策定
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	福岡女子短期大学
設置者名	学校法人 九州学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>本学では授業概要、到達目標、授業計画、成績評価方法、フィードバックの方法、教科書、参考書、アクティブ・ラーニング、ICT活用等を記載したシラバスを作成し、ホームページで公表している。</p> <p>シラバスに記載する内容と作成要領は、教務委員会で検討して決定し、授業を担当する全教員(非常勤を含む)に周知している。本年度のシラバスについては、全教員を対象に「シラバス作成について」のFD研修会を令和3年12月22日(水)に実施後、作成した。</p> <p>作成された「シラバス」については、教務委員会を中心とした他教員による第三者チェックを実施している。</p> <p>第三者チェック終了後、ホームページでシラバスを公開している。学生は令和4年度よりWeb上で確認している。</p>	
授業計画書の公表方法	http://midori-system.jp/fwjc_syllabus2021/ http://midori-system.jp/fwjc_syllabus2022/
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>授業科目の学修成果の評価については、シラバスに成績評価方法として記載し、学生に周知している。教員は、筆記試験やレポート、課題、実技、受講状況・態度など、シラバスに記載した成績評価方法のとおり、学修成果の評価を行い、これに基づいて単位を与えている。</p>	

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

履修科目の成績は、100点満点の点数であらわし、次の基準で定めた、S、A、B、C、Dで評価している。S～Cは合格、Dは不合格である。

	合格				不合格
評価	S	A	B	C	Dまたは失格
点数	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0

S、A、B、C、Dでの成績評価に加えて、履修科目の成績をGP (Grade Point) に換算し、ある期間に履修した授業科目の平均的な評価としてGPA (Grade Point Average) を使用している。GPAは、学修成果を総合的に判断できる指標であるため、学生が自分の評価基準の参考となるよう「成績通知書」に記載している。

GPAは、次の計算式で算出される。

$$\text{GPA} = \frac{(\text{履修登録した科目のGP} \times \text{その科目の単位数})\text{の総和}}{\text{履修登録した科目の総単位数}}$$

1ポイント以下の場合、学生の指導をしている。

また、CAP制緩和の基準にも利用している。本学では、1の学期に履修できる単位数は、教職課程等の免許科目を除き30単位が限度だが、GPAの成績優秀者については、1の学期に履修できる単位数を、教職課程等の免許科目を除き、35単位まで緩和する措置をとっている。

GPA制度については、ホームページで公表するとともに、学生便覧に掲載し、オリエンテーション時に説明して学生に周知している。

客観的な指標の
算出方法の公表方法

https://www.fukuoka-wjc.ac.jp/about/diploma_1.html

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

本学の建学の精神を受け継ぐ教育理念は、「自ら行動する有能な社会人としての女性」、「専門の知識・技術をしっかり身に付け、その才を自ら伸ばす努力をする女性」の育成である。この教育理念から導き出された4つの観点(①知識・理解②思考・判断③興味・意欲・態度④技能・表現)を学修成果の全学的な評価領域として、次のように学位授与の方針(ディプロマポリシー)を策定している。

1. 教養豊かで物事を多角的な視点で捉え、様々な問題に対して論理的に考え、状況に応じた判断を下すことができる。
2. 社会生活において遭遇する諸問題に適切に対処することができる。
3. 自立した社会の一員として果たすべき責任を自覚している。
4. 自らを律することができ、他者と共同で作業する力を身に付けている。
5. 各学科の専門性に合わせた専門力量を修得し、社会の変化とニーズに対応し、主体的に活躍できる。

各学科においても、上記①～④の4つの領域に関する学科のディプロマポリシーを策定している。

全学及び各学科のディプロマポリシーは、ホームページで公表し、また学生便覧に掲載して学生に配布している。

ホームページと学生便覧には、カリキュラム・ツリーやカリキュラム・マップを掲載し、卒業までにどのような力を身に付けることになるか明確に示している。

卒業については、卒業までに身につけなければならない学修成果を獲得し、2年以上在学して所定の単位数を修得した者について、教授会の議を経て、認定している。

卒業認定の方針や卒業要件は、ホームページや学生便覧への掲載の他、オリエンテーション時に学生に説明して周知している。

卒業の認定に関する
方針の公表方法

https://www.fukuoka-wjc.ac.jp/about/diploma_policy.html

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	福岡女子短期大学
設置者名	学校法人 九州学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.fukuoka-wjc.ac.jp/hojin/zaimu/taishaku.pdf
収支計算書又は損益計算書	https://www.fukuoka-wjc.ac.jp/hojin/zaimu/shikinshuushi.pdf
財産目録	https://www.fukuoka-wjc.ac.jp/hojin/zaimu/mokuroku.pdf
事業報告書	https://www.fukuoka-wjc.ac.jp/hojin/zaimu/jigyohoukoku.pdf
監事による監査報告(書)	https://www.fukuoka-wjc.ac.jp/hojin/zaimu/kanjikansa.pdf

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	
中長期計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: https://www.fukuoka-wjc.ac.jp/about/pdf/2020_jikotenken.pdf

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: https://www.fukuoka-wjc.ac.jp/osirase/hyouka.html

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 健康栄養学科
教育研究上の目的 (公表方法： https://www.fukuoka-wjc.ac.jp/about/pdf/gakka-mokuteki.pdf) (概要) 社会人としての常識・教養と食の専門家としての知識・技能・態度を身に付けさせ、食と健康の分野で幅広く活躍できる人材の育成を目指す。
卒業の認定に関する方針 (公表方法： https://www.fukuoka-wjc.ac.jp/about/diploma_policy.html) (概要) 卒業については、学位授与の方針(ディプロマポリシー)に示している卒業までに身に付けなければならない学修成果を獲得し、2年以上在学して所定の単位数を修得した者について、教授会の議を経て、認定している。 健康栄養学科のディプロマポリシーは、次のとおりである。 全学評価領域 社会人としての常識・教養と食の専門家としての知識・技能・態度を身に付けさせ、食と健康の分野で幅広く活躍できる人材の育成を目指す。 知識・理解 社会生活を営むために必要な教養と食の専門家として活躍するための豊かな知識を身に付けている。 思考・判断 習得した知識を踏まえて、物事を論理的に考え、適切な判断ができる。 興味・意欲・態度 ・社会の一員としての倫理観と責任感、報恩感謝の気持ちを持った行動ができる。 ・食や健康に関して興味を示し、社会に積極的に関わろうとする意欲を有する。 技能・表現 ・人々との良好な人間関係を築くことができる。 ・食と健康に関する専門技術と表現力を身に付けている。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法： https://www.fukuoka-wjc.ac.jp/about/curriculum_policy.html) (概要) 全学評価領域 社会人としての常識・教養と食の専門家としての知識と技能を習得し、仕事に携わる上での基礎(力)が身に付くように次の方針でカリキュラムを編成している。

知識・理解

食の専門家として必要な知識を「社会生活と健康」「人体の構造と機能」「食品と衛生」「栄養と健康」「栄養の指導」「給食の運営」の分野ごとに基礎的なものから段階的に学ぶ。

思考・判断

習得した知識を実験や実習を通じて確認しながら、問題点を発見し、より良くする過程を通じて論理的な思考力・適切な判断力を養う。

興味・意欲・態度

- ・実験や実習での協働作業を通じて規律を守り、自分の役割を果たすことの大切さを学び、また、感謝を伝える術を習得する。
- ・学外実習など実社会を体験する機会を与えることで食を通じて社会に関わろうとする意欲を高める。

技能・表現

- ・実験や実習、学外実習を通じて良好な人間関係を構築する術と専門的コミュニケーションの技術を習得する。
- ・「栄養と健康」「栄養の指導」「給食の運営」「情報処理」などの科目を通じて栄養マネジメントの基本的な手法を身に付ける。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：https://www.fukuoka-wjc.ac.jp/about/admission_policy.html)

(概要)

各学科共通のアドミッションポリシーとして

- ・高等学校卒業又はそれと同等以上の学力を有し、基礎的な知識を有している。
- ・物事を多面的に考え、自分の意見をまとめることができる。

全学評価領域

基本的な生活習慣が身に付いており、食を通じて社会に貢献したいという強い意志と情熱を持った、次のような人を求めています。

知識・理解

高等学校卒業及びそれと同等以上の学力を有し、基礎的な知識を有している。

思考・判断

物事を多面的に考え、自分の意見をまとめることができる。

興味・意欲・態度

- ・主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度を持っている。
- ・食に関する様々なことに関心を持ち、食を通じて社会に貢献したいと考えている。

技能・表現

- ・自分の考えを他者に分かりやすく説明できる。
- ・基本的な調理技術を身に付けている。

学部等名 音楽科
教育研究上の目的 (公表方法: https://www.fukuoka-wjc.ac.jp/about/pdf/gakka-mokuteki.pdf)
(概要) 音楽の理論と実技の基本を常に大事にし、生涯にわたり、音楽に対して向上心を持ち続けることができる人材の育成を目指す。
卒業の認定に関する方針 (公表方法: https://www.fukuoka-wjc.ac.jp/about/diploma_policy.html)
(概要) 卒業については、学位授与の方針(ディプロマポリシー)に示している卒業までに身に付けなければならない学修成果を獲得し、2年以上在学して所定の単位数を修得した者について、教授会の議を経て、認定している。 音楽科のディプロマポリシーは、次のとおりである。 全学評価領域 音楽の理論と実技の基本を常に大事にし、生涯にわたり、音楽に対して向上心を持ち続けることができる人材の育成を目指す。 知識・理解 音楽に関する基礎的な知識を身に付けている。 思考・判断 音楽を通して社会の一員としての自覚をもった行動・判断ができる。 興味・意欲・態度 音楽を通して地域文化の発展に積極的に関わることができる。 技能・表現 演奏・指導に関する実践力を身に付けている。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法: https://www.fukuoka-wjc.ac.jp/about/curriculum_policy.html)
(概要) 全学評価領域 音楽の基本を学ぶことにより、各専門分野の理論と実技がバランスよく習得できるように次の方針でカリキュラムを編成している。 知識・理解 音楽の基礎的な理論及び演習を体系的に学習し、それらが実技と密接に関係している事を学ぶ。 思考・判断 音楽に携わる者としての自覚を身につけると共に、他者を理解する力を養う。 興味・意欲・態度

演奏活動、実習、ボランティア活動等、学内・学外における実践的な経験を通して、主体性を高める力を養う。

技能・表現

- ・個人に合わせた教育プログラムを展開することにより、技能、表現の向上を図る。
- ・知識・理解を基に実践力を身に付け、自ら応用していく力を養う。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：https://www.fukuoka-wjc.ac.jp/about/admission_policy.html)

(概要)

各学科共通のアドミッションポリシーとして

- ・高等学校卒業又はそれと同等以上の学力を有し、基礎的な知識を有している。
- ・物事を多面的に考え、自分の意見をまとめることができる。

全学評価領域

豊かな人間性と創造性に富み、音楽を通して広く社会貢献を目指す、次のような人を求めています。

知識・理解

高等学校卒業及びそれと同等以上の学力を有し、基礎的な知識を有している。

思考・判断

物事を多面的に考え、自分の意見をまとめることができる。

興味・意欲・態度

- ・主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度を持っている。
- ・目標意識を持ち、自らの音楽に喜びをもって取り組むことができる。

技能・表現

これまでの音楽経験を基にした演奏、表現ができる。

学部等名 文化教養学科

教育研究上の目的

(公表方法：<https://www.fukuoka-wjc.ac.jp/about/pdf/gakka-mokuteki.pdf>)

(概要)

日本語日本文学、日本文化、実用英語、情報処理をはじめとする幅広い学びを通して、人間性豊かで、より良い人間関係を構築し、社会生活で主体的、積極的に行動できる人材の育成を目指す。

卒業の認定に関する方針

(公表方法：https://www.fukuoka-wjc.ac.jp/about/diploma_policy.html)

(概要)

卒業については、学位授与の方針（ディプロマポリシー）に示している卒業までに身に付けなければならない学修成果を獲得し、2年以上在学して所定の単位数を修得した者について、教授会の議を経て、認定している。

文化教養学科のディプロマポリシーは、次のとおりである。

全学評価領域

日本語日本文学、日本文化、実用英語、情報処理をはじめとする幅広い学びを通して、人間性豊かで、より良い人間関係を構築し、社会生活で主体的、積極的に行動できる人材の育成を目指す。

知識・理解

- ・日本語日本文学・日本文化・実用英語及び情報処理について強い関心を持ち、理解を深めている。
- ・社会に貢献するために必要な基礎的知識を身に付けている。

思考・判断

自分自身の在り方から社会貢献の在り方まで、主体性を持って考えることができる。

興味・意欲・態度

地域社会に貢献するため、様々な知識や意見などを積極的に役立てようとする意欲を持っている。

技能・表現

日本語を含めた語学、情報処理スキルを活用し社会生活において良好なコミュニケーションを行うことができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：https://www.fukuoka-wjc.ac.jp/about/curriculum_policy.html)

(概要)

教育理念から導き出された4つの評価領域を基に、学科のカリキュラムポリシーを策定し、学修成果を量的・質的データとして測定可能な評価指標を策定しています。

全学評価領域

国際的な視野を持ちつつ、日本の様々な文化についての理解を深め、社会に貢献するための知識と教養を身に付けるように次の方針でカリキュラムを編成している。

知識・理解

- ・日本語日本文学・日本文化及び外国の文化の魅力を感じ取ると共に必要な知識を学習する。
- ・自ら学ぶために必要な文献、資料、情報を得るための知識や技術を学習する。
- ・社会に貢献するために必要な基礎的知識を学習する。

思考・判断

- ・人間性や人間関係、また個人と社会との関係などを、主に文学作品を通して考える。
- ・地域社会への貢献と様々な実践の在り方について考える。
- ・自分の意見・主張を論理的に整理する。

興味・意欲・態度

- ・他者の意見や主張を尊重し、真摯に検討する態度を養う。
- ・地域への貢献、及び乳幼児や児童・生徒の成長を支援する意欲を養う。

技能・表現

- ・日本語の的確な意思疎通、外国の言葉や文化に対する理解を通して良好な人間関係を構築する力を養う。
- ・コンピュータの主要なソフトウェアを使って、分かりやすく表現する力を養う。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：https://www.fukuoka-wjc.ac.jp/about/admission_policy.html)

(概要)

各学科共通のアドミッションポリシーとして

- ・高等学校卒業又はそれと同等以上の学力を有し、基礎的な知識を有している。
- ・物事を多面的に考え、自分の意見をまとめることができる。

全学評価領域

日本や外国の様々な文化に強い関心を持ち、社会に貢献したいと考えている、次のような人を求めています。

知識・理解

高等学校卒業及びそれと同等以上の学力を有し、基礎的な知識を有している。

思考・判断

物事を多面的に考え、自分の意見をまとめることができる。

興味・意欲・態度

- ・主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度を持っている。
- ・真摯な学習態度を持ち、身に付けた知識を社会に役立てる意欲を持っている。

技能・表現

自分の考えを他者に分かりやすく説明できる。

学部等名 子ども学科
教育研究上の目的 (公表方法： https://www.fukuoka-wjc.ac.jp/about/pdf/gakka-mokuteki.pdf)
(概要) 保育を实践するものとしての知識と技術を習得し、将来にわたって自分の保育の質を自ら高めることができる人材の育成を目指す。
卒業の認定に関する方針 (公表方法： https://www.fukuoka-wjc.ac.jp/about/diploma_policy.html)
(概要) 卒業については、学位授与の方針(ディプロマポリシー)に示している卒業までに身に付けなければならない学修成果を獲得し、2年以上在学して所定の単位数を修得した者について、教授会の議を経て、認定している。 子ども学科のディプロマポリシーは、次のとおりである。 全学評価領域 保育を实践するものとしての知識と技術を習得し、将来にわたって自分の保育の質を自ら高めることができる人材の育成を目指す。 知識・理解 <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの心身の成長・発達について理解している。 ・保育の目的、方法、内容について理解している。 思考・判断 <ul style="list-style-type: none"> ・子どもを取り巻く環境を的確に把握することができる。 ・子どもの日々の課題に応じて、適切に対処することができる。 興味・意欲・態度 <ul style="list-style-type: none"> ・世の中の出来事に、幅広く興味・関心を持つことができる。 ・子どもと関わる大人としての自覚を持ち、それにふさわしい態度や言動をとることができる。 技能・表現 <ul style="list-style-type: none"> ・子どもにとって安全・快適な環境を整えることができる。 ・子どもの表現活動を豊かにするために必要な技能(音楽系、図画工作系、体育系他)を有している。 ・子どもやその関係者と適切なコミュニケーションをとり、信頼関係を構築することができる。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法： https://www.fukuoka-wjc.ac.jp/about/curriculum_policy.html)
(概要) 全学評価領域 保育に必要な原理、および理念を学ぶとともに実践技術を習得できるように支援する。特に、「理論と実践技術と保育実践が結びつくことによって保育が成立すること」を学べるように次の方針でカリキュラムを編成している。

<p>知識・理解 保育の目的、方法、内容を理解し深化させるために、段階的に学ぶ。</p> <p>思考・判断 子どもを取り巻く環境を的確に把握する思考力や、子どもの日々の課題に応じて、適切に対処することができるような判断力を身に付ける。</p> <p>興味・意欲・態度 ・社会人としての教養を身につけ、保育者としての自覚・責任を持って行動する力を養う。 ・向上心を持って生活し、意欲的に他者や地域と関わって行く力を養う。</p> <p>技能・表現 ・子どもにとって安全・快適な環境を整えたり、子どもの表現活動を豊かにするために必要な技能を習得する。 ・感性を養うことで自己表現の涵養を図る。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.fukuoka-wjc.ac.jp/about/admission_policy.html) (概要)</p> <p>各学科共通のアドミッションポリシーとして ・高等学校卒業又はそれと同等以上の学力を有し、基礎的な知識を有している。 ・物事を多面的に考え、自分の意見をまとめることができる。</p> <p>全学評価領域 人への思いやりや優しさを持ち、子どもたちと関わる喜びを全身で感じ取れる、次のような人を求めています。</p> <p>知識・理解 高等学校卒業及びそれと同等以上の学力を有し、基礎的な知識を有している。</p> <p>思考・判断 物事を多面的に考え、自分の意見をまとめることができる。</p> <p>興味・意欲・態度 ・主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度を持っている。 ・子どもについて関心を持ち、笑顔をもって保育に携わりたいと考えている。</p> <p>技能・表現 自分の考えを他者に分かりやすく説明できる。</p>

②教育研究上の基本組織に関すること

<p>公表方法：https://www.fukuoka-wjc.ac.jp/about/pdf/3-wjc.pdf</p>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	1人	—					1人
健康栄養学科	—	3人	2人	0人	0人	3人	8人
音楽科	—	3人	3人	0人	0人	0人	6人
文化教養学科	—	4人	1人	1人	0人	0人	6人
子ども学科	—	3人	2人	4人	0人	0人	9人
教養教育他	—	4人	1人	0人	0人	0人	5人
合計	1	17人	9人	5人	0人	3人	34人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
1人		57人					58人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法： https://www.fukuoka-wjc.ac.jp/about/teacher/index.html					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
授業評価アンケート結果学内開示（前期 3. 9. 28～3. 10. 15・後期 4. 4. 19～4. 5. 9）							
授業参観（後期のみ実施 3. 10. 18～3. 12. 24）							
FD／SD研修会	3. 4. 1	初任者研修会					
	3. 9. 22	令和4年度認証評価についての研修会					
	3. 12. 22	シラバス作成について					
	4. 3. 22	電子黒板を利用した動画教材の作り方					

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
健康栄養学科	50人	39人	78.0%	100人	57人	57.0%	0人	0人
音楽科	50人	16人	32.0%	100人	38人	38.0%	0人	0人
文化教養学科	70人	44人	62.8%	140人	94人	67.1%	0人	0人
子ども学科	70人	42人	60.0%	140人	77人	55.0%	0人	0人
合計	240人	141人	58.7%	480人	266人	55.4%	0人	0人
(備考)								

b. 卒業生数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
健康栄養学科	24人 (100%)	0人 (0%)	21人 (87.5%)	3人 (12.5%)
音楽科	28人 (100%)	4人 (14.3%)	23人 (82.1%)	1人 (3.6%)
文化教養学科	45人 (100%)	1人 (2.2%)	42人 (93.3%)	2人 (4.4%)
子ども学科	43人 (100%)	0人 (0%)	43人 (100%)	0人 (0%)
合計	140人 (100%)	5人 (3.6%)	129人 (92.1%)	6人 (4.3%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
【進学】				
エリザベト音楽大学音楽学部演奏学科、筑紫女学園大学日本語・日本文学科 大分県立芸術短期大学専攻科音楽専攻、福岡女子短期大学専攻科音楽専攻				
【就職】				
福西会病院、天水生命学園、博多老人ホーム、エームサービス㈱、ゆたか保育園、さくら保育園、 福岡市立和白丘中学校、久留米市立城南中学校、八女市立見崎中学校、築城町立椎田中学校 北九州市消防局(音楽隊)、ヤマハ音楽教室、カワイ音楽教室、特別養護老人ホーム遠賀園、 みやま市立瀬高中学校、柳川市立大和中学校、福岡市立高宮中学校、福岡県立図書館、 粕屋町立図書館、久留米市立図書館、筑後市立図書館、伊万里市民図書館、 筥松幼稚園、荘島幼稚園、甘木幼稚園、アスター幼稚園、カトリック聖クララ幼稚園、 ヴィラのぞみ愛児園、白百合保育園、正法寺保育園、信和保育園、清心慈愛園、 榎田神社、宮地嶽神社、福岡県青少年科学館、㈱武田メガネ、ダイレックス㈱、㈱迫田 他				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業生数	留年者数	中途退学者数	その他
健康栄養学科	23人 (32.8%)	22人 (95.6%)	0人 (%)	1人 (4.34%)	0人 (%)
音楽科	33人 (41.2%)	28人 (84.8%)	1人 (3.03%)	3人 (9.09%)	1人 (3.03%)
文化教養学科	48人 (68.5%)	44人 (91.6%)	1人 (2.08%)	3人 (6.25%)	0人 (%)
子ども学科	45人 (64.2%)	43人 (95.5%)	0人 (%)	2人 (4.44%)	0人 (%)
合計	149人 (51.3%)	137人 (91.9%)	2人 (%)	9人 (6.04%)	1人 (0.67%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要)

授業の方法、授業の目的、到達目標、授業計画、成績評価方法等を記載したシラバスを作成し、ホームページで公表している。シラバスに記載する内容と作成要領は、教務委員会で検討して決定し、授業を担当する全教員（非常勤を含む）に周知している。本年度のシラバスについては、全教員を対象に「シラバス作成について」のFD研修会を令和3年12月22日（水）に実施後、作成した。また、作成された「シラバス」については、教務委員会を中心に他教員による第三者チェックを実施している。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)

授業科目の学修成果の評価については、シラバスに成績評価方法として記載し、学生に周知している。教員は、試験やレポートなど、シラバスに記載した成績評価方法のとおり、学修成果の評価を行い、これに基づいて単位を与えている。卒業については、2年以上在学し、ディプロマポリシーに示した能力を獲得する学修を通じて所定の単位数を修得した者について、教授会の議を経て、認定している。

学部	学科名	卒業に必要な単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
	健康栄養学科	64 単位	㊦・無	30 単位
	音楽科	64 単位	㊦・無	30 単位
	文化教養学科	64 単位	㊦・無	30 単位
	子ども学科	64 単位	㊦・無	30 単位
GPAの活用状況 (任意記載事項)		公表方法： https://www.fukuoka-wjc.ac.jp/about/diploma_1.html		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法： https://www.fukuoka-wjc.ac.jp/about/pdf/enq-1.pdf https://www.fukuoka-wjc.ac.jp/about/pdf/2022_14-wjc.pdf https://www.fukuoka-wjc.ac.jp/about/pdf/enq-3.pdf		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：

<https://www.fukuoka-wjc.ac.jp/about/pdf/7-wjc.pdf>

<https://www.fukuoka-wjc.ac.jp/life/campus.html>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

2021・2022年度入学者

学科名	授業料 (年間)	入学金	その他 (年間)	備考 (任意記載事項)
健康栄養学科	600,000 円	210,000 円	340,000 円	その他は、施設資金、教育充実費 休学の場合は在籍料 150,000 円を徴収する
音楽科	780,000 円	210,000 円	500,000 円	
文化教養学科	600,000 円	210,000 円	320,000 円	
子ども学科	600,000 円	210,000 円	340,000 円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

<p>a. 学生の修学に係る支援に関する取組</p> <p>(概要)</p> <p>学生の修学に係る支援の概要</p> <p>本学における修学支援は、学生部長を中心として構成される学生委員会また学生部長を委員長とした学生相談室運営委員会と学生支援課が協働して修学支援・学生生活支援のための事項について審議、実施しています。</p> <p>① クラスアドバイザー制度の実施</p> <p>クラスアドバイザーは、学生の公私の問題に関して助言と指導を行っています。</p> <p>② 新入生オリエンテーションの実施</p> <p>入学当初に行うオリエンテーションで、各学科の教員紹介・学科概要及び教養教育、専門教育等の授業科目の説明の他、サークル紹介や学内ツアー等を実施しています。</p> <p>③ 保護者との連携</p> <p>各学科及びアドバイザーとキャリア支援課、履修支援課、学生支援課による「保護者懇談会」を実施しています。二部構成で実施し、全体説明会では、「就活」における「学生・保護者」の心構えやスケジュール等の説明、クラス別集会では、アドバイザーによる個別面談を行っています。</p> <p>④ 学友会活動への支援</p> <p>学友会執行部、学園祭実行委員会が実施する各行事を円滑に遂行するため、学生委員を交えた学友会協議会、学園祭協議会を随時開催し大学との意思疎通を図っています。</p>
<p>b. 進路選択に係る支援に関する取組</p> <p>(概要)</p> <p>キャリア支援委員会とキャリア支援課とが連携して進路支援に取り組んでいる。</p> <p>正課では1年次からのキャリア科目の展開を行い、正課外では数多くの学内セミナーを開催している。</p> <p>キャリア支援課では、求人情報の提供は勿論、進路相談、履歴書指導、模擬面接他の個別支援を行っている。</p>

<https://www.fukuoka-wjc.ac.jp/work/support.html>

c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

(概要)

学生の心身の健康等に係る支援

本学では、学生相談室を設置し、学生部長を委員長とした学生相談室運営委員会と学生支援課が協働して「人間関係」「心身」「履修」「進路」など様々な不安に対し、クラスアドバイザーおよび専任の臨床心理士による相談、指導を行っています。

主な相談内容は、心身の健康状態や人間関係、修学や進路等です。また、家族との相談や医療機関等の外部機関との連携、協力も行っています。相談活動以外にも、学生全体へのアプローチとして、社会性の促進を目的としたグループワークやハラスメント予防に向けた研修も実施しています。

また、毎年4月の2週目に健康診断及びメンタルヘルス問診を実施しています。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：

「教員が有する学位及び業績」ページで各教員の研究業績を公表

<https://www.fukuoka-wjc.ac.jp/about/teacher/index.html>

福岡女子短期大学研究紀要 (毎年発行)

<https://cloud.iliswave.jp.fujitsu.com/iwjs0001opc/TA10037557>

(お問い合わせ：福岡女子短期大学図書館)

T E L: 092-922-3604

E-mail: libml@fukuoka-wjc.ac.jp

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード	F240310110962
学校名	福岡女子短期大学
設置者名	学校法人九州学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		60人	56人	65人
内 訳	第Ⅰ区分	32人	28人	
	第Ⅱ区分	16人	15人	
	第Ⅲ区分	12人	13人	
家計急変による支援対象者（年間）				
合計（年間）				
(備考)				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定		0人	0人
修得単位数が標準単位数の5割以下 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位数が標準単位数の5割以下）		—	0人
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況		—	0人
「警告」の区分に連続して該当		0人	—
計		—	—
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
年間	前半期	後半期
	0人	0人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位数が標準単位数の6割以下）		0人	0人
GPA等が下位4分の1		—	—
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況		—	—
計		—	—
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。